

日本語授業におけるビジターセッションの取組と意義

—日本人学生・留学生双方の視点から—

永井涼子

要旨

本稿では、本年度より始めた日本語授業に日本人学生がボランティアとして参加するビジターセッションの取組を紹介すると同時に、留学生・日本人学生のアンケート結果から双方におけるビジターセッションの意義を考察した。その結果、日本人学生全員が留学生や国際交流に対する意識が変化したと答え、日本人学生の国際理解教育としての意義があることが明らかになった。一方留学生は日本語の運用力向上の機会として捉えていることがわかった。

キーワード

ビジターセッション, 日本語教育, 国際理解教育, 日本人ボランティア

1 はじめに

日本語だけでなく、一般的に外国語学習において、学習言語の母語話者とのインターアクションは様々な効果があると指摘されている。ネウストプニー(1982)は教室の場面を実際のコミュニケーションの場面に近づけるのに有効であると指摘し、中井(2003:94)は、「学習者の談話能力の向上のみならず、会話をすることへの動機付けと自信にもつながられる」としている。

このような理由から多くの日本語授業で「ビジターセッション」が取り入れられてきた。ビジターセッションとは、「教師以外の日本語母語話者や準母語話者が「ビジター」として、学習活動の一環として日本語のクラスに参加し、学習者とインターアクションを持つ場のことである」(中井,2003:81)。

このビジターセッションは、日本語学習者だけではなくビジターである日本人に対しても、異文化を理解したり、異文化交流のきっかけになったり、外国語学習に対する意欲を

高めたりする効果があると指摘されている(蔭山他,2009;園田他,2008;Nabin,2005)

そこで本年度より山口大学留学生センターの一部の日本語授業において、日本語授業におけるビジターセッションを開始した。この試みは、留学生の日本語学習支援および日本人学生の国際理解促進を目的とし、山口大学に在籍する日本人学生を対象に日本語授業の会話ボランティア(ビジター)を募集した。

山口大学には留学生と交流できる制度として、チューター制度がある。これは本学の留学生1名に対して来日後1年間日本人学生を1名チューターとしてつける制度である。日本人学生は、この制度を利用すれば留学生と深く関わることも可能である。しかしチューターは応募数が募集人数を超えた場合、チューター経験や留学経験、語学力などによる選考が行われる。つまり全員に開かれた制度ではない。英語力に自信がなく、これまで海外経験や留学生と接した経験がなくても、気軽に留学生と交流できる場として、このビジタ

セッションを取り入れることにした。

本稿ではこのビジターセッションの取組について実践報告するとともに、ビジターセッションを経験した留学生および日本人学生のアンケート調査の結果を分析し、留学生および日本人学生双方にとってどのような意義があるのかを考察する。

2 本学のビジターセッション概要

2.1 目的

本学で日本語授業を受講する留学生はその多くが特別聴講学生（交換留学生）である。交換留学生の場合、研究室で研究活動を行うわけではなく、また滞在期間も半年から1年間と短いため、日本人学生との交流の機会はそれほど多くない。また、日本語レベルが上級ではない交換留学生の場合、日本人向けの講義は難しすぎるため、日本語の授業しか受講していない学生も少なくない。そのため、日本に留学しているにも関わらず、主に日本語の授業でのみ日本語を使う、日本人の友達がいらないという留学生も少なくない。また、授業中に必ずしも十分な運用機会があるとは限らない。つまり、日本語を受講している留学生は運用力を伸ばす機会が必要である。

また、近年日本人学生の「内向き」傾向が指摘されており、日本人学生の留学件数が減少傾向にあると言われている。しかし、日本人学生が国際交流に興味を失ったわけではなく、興味がありつつも「何を話していいかわからない」「話しかけにくい」と留学生との交流に対する心理的壁を感じ（梶原,2003）、それが国際交流や留学を遠ざけている場合もある。

そこで、留学生および日本人学生双方に意義のある活動として、本年度より留学生向けの日本語の授業における会話ボランティアの募集を始めた。その目的は以下の3点である。

- ① 留学生の日本語運用力の向上
- ② 日本人学生と留学生の交流の場の提供お

よび以後の継続的な交流への懸け橋

③ 日本人学生が持っている外国や外国人に対する意識の変革

つまり、留学生に対しては習った日本語を日本人とともに実用的に練習する機会になり、運用力を養うことができるとともに、日本語でコミュニケーションができるという自信をつけることにもつなげることを目的とする。また、日本人学生と知りあう機会となり、授業外での交流にもつながることを期待する。

また、日本人学生に対しては、何となく興味はあるが、敷居の高さから行動に移せないでいる、国際的人材の予備群とも言える日本人学生に日本語授業という交流の場を体験してもらい、外国や外国人に対する心理的な壁を取り払う。それにより、将来的に海外留学や国際交流への積極的な参加へとつながることを期待するものである。

2.2 募集方法

ビジターとなる日本人学生の募集は掲示板を利用して行った。掲示用のポスター（資料1、資料2）を作成し、各学部に掲示を依頼した。ポスターには、①日本語の授業で会話練習の相手となるボランティアを募集していること、②留学生と日本語で話すこと、③事前準備は特に必要ないことを記載した。また、ボランティアに参加している学生から口コミで聞き、参加を希望してくる学生もいた。

掲示板を見て興味を持った学生が担当教員に連絡し、教員がクラス概要、ボランティアの参加方法などについて書面にて説明を行った。また初回の授業前には口頭でも説明した。

2.3 参加形態

クラスによって異なるが、日本人学生には1つの授業（90分）のうち、30～90分参加してもらった。詳しい内容は次章で述べる。

また、できるだけ毎週継続して授業に参加してもらおうことをお願いした。ボランティア

の継続的な授業参加は困難であるという指摘もあるが（深澤他,1999;渡部他,2008）、今回は募集するクラスが学期につき1~2クラスと少なかったことに加え、なるべく継続して来てもらうことで、留学生と日本人学生の交流を深めてほしいという考えから、できるだけ継続して参加してもらうように依頼した。就職活動や卒業論文の発表会など、来られないときは無理に参加する必要はないと伝えた。

さらにクラスごとに日本人学生と教員が参加するメーリングリストを作成し、次のクラスの内容などを事前に知らせるようにした。ディスカッションのテーマなどは早めに知らせることで、心の準備だけでなく、あらかじめ調べておくこともできるなど、日本人学生の負担を軽減できるように努めた。

次章以降では具体的なクラスの概要について述べる。

3 日本語 3A（中級文法・会話）クラス

本章では平成23年度前期に行われた日本語3Aでのビジターセッションの取組について述べる。

日本語3Aとは、中級前半レベルの文法・会話クラスである。このクラスでは1~2週かけて1つのテーマの会話を学ぶ。日本人学生には、90分授業のうち、前半の45分に入ってもらった。ビジターの日本人学生は10名程度で、受講する留学生は20名であった。

授業の進め方は、以下の通りである。

- | |
|---|
| ① <u>日本人学生1名と留学生2~3名のグループでアイスブレイク（5分）</u> |
| ↓ |
| ② <u>同じグループで前の週に学んだ表現を使ったモデル会話練習（15分）</u> |
| ↓ |
| ③ <u>同じグループでモデル会話を参考にしたロールプレイ（20分）</u> |
| ↓ |
| ④ 前の週に学んだ表現の小テスト（5分） |



⑤ <u>新しい表現の導入練習（45分）</u>

という流れである。つまり、授業で学んだ表現を自宅で復習し、翌週にそれを使った会話を日本人とともに練習するという流れとなる。この際、表現を学ぶ座学の時間と、ビジターが入った会話の時間を明確に区切るため、表現の時間に入る前に小テストを実施した。

また、日本人学生と留学生が垣根を越えてコミュニケーションができるようになるために、授業の冒頭でアイスブレイクのフリートークの時間を設けた。フリートークは5分程度であり、教師が提示したテーマについて、自由に話し合うというものである。留学生には、この時間は習った表現を使わなければならない、など制約を感じることなく、間違えてもいいので自由に話すように伝えた。フリートークのテーマは、各国の大学生の生活、外国語の勉強、アルバイト、日本に来て不思議に思ったことなど、留学生にとって話やすく、日本人学生にとっては留学生の国について少しでも理解できるようなものにするよう努めた。

4 日本語 3B（中級作文）クラス

日本語3Bとは、平成23年度後期に実施した中級前半レベルの作文のクラスである。このクラスは、学術的な書きことばの文体を使った意見文が論理的にまとめられるようになることを目的としている。

このクラスでは、作文を書くにあたって意見をまとめるためのディスカッションの時間をビジターセッションの時間とした。受講する留学生は12名、ビジターの日本人学生は6名程度であった。

具体的な授業の進め方は、以下の通りである。

- | |
|--|
| ① 宿題として提出した作文の自己添削：教員が指摘した修正箇所を直す（15分） |
|--|

↓
② 新しい表現の導入・練習 (45分)

↓
③ ディスカッションのテーマについて説明・自分の意見をまとめる (5分)

↓
④ 日本人学生1名と留学生2~3名のグループでディスカッション (25分) : このときメモを取る。

↓
⑤ ディスカッションした内容から自分の意見をまとめて作文を書く (宿題)

このクラスでは、後半のディスカッションの時間(③④)30分間をビジターセッションとの時間とした。

ディスカッションのテーマは主に教員が与えたが、後期後半には日本人学生、留学生が考えたテーマについても話し合った。教員が提示したテーマとしては、塾の必要性、優先席の必要性といった社会問題と、制服、学生のアルバイトなどの身近な話題を交互に組み合わせ、硬い雰囲気にならない中で深い議論ができるように図った。学生から提案があったテーマとしては「年末年始の過ごし方」「自分にとってのヒーロー」などが挙げられる。

作文の授業ではビジターセッションは必要なのではないかという意見もあるだろう。しかし、作文、中でも意見文をまとめる際には、意見を考える思考力が必要となる。その思考力を養うと同時に、留学生および日本人学生双方が視野を広げるきっかけになればと思い、このスタイルを取り入れた。

5 日本語 5B (上級ビジネス日本語) クラス

日本語 5B とは、上級レベルのビジネス日本語のクラスである。このクラスでは、企業人を招くオムニバス形式の講義、日本企業文化理解講座(永井,2011)と一部連動しており、次の日本企業文化理解講座の企業の業界についての業界研究、およびビジネス会話を学ぶ

授業となっている。22名の留学生が受講していた。

このクラスでは、日本人学生3名に90分の授業全てに参加してもらった。授業の流れは以下の通りである。

① 宿題で該当業界の日本の動向について読み、自国の動向について調べ、ポストイットに書いてくる。

↓
② 国別に分かれ、自分の書いたポストイットを貼り、話し合いを通してマッピングを行う。 (40分)

↓
③ 話し合いの結果を国別に発表し、共有する。 (10分)

↓
④ ビジネス会話:モデル会話の導入・練習、ロールプレイ (全てペア練習) (40分)

②のマッピングの活動では、日本人学生には国別のグループに入ってもらい、マッピングのファシリテーターをお願いした。本稿で言うマッピングとは、ポストイットの情報内容によって、同様のものは重ね、類似したものは近くに・異なるものは遠くに配置する、という作業を行うものである。ポストイットを使ったマッピングの活動は、A) ポストイットに簡潔に情報を書く、B) 書かれた情報を即座に理解する、C) 自分の意見を相手に伝える、D) 相手の意見を理解する、E) 自分以外のメンバーの話し合いを理解する、といった能力を学ぶことができる(近藤他,2011)。

しかし、留学生にとっては、上記のA) ~ E) だけでも困難であり、ファシリテーターを行うことは難しい。また国別で話し合うので、どうしても母語を使用してしまうことがある。そこで、日本人学生に入ってもらい、ファシリテーターとして話し合いの進行を任せた。

教員は事前に日本人学生にファシリテーターとしての進め方などについて説明を行い、

話し合いの間は机間巡視を行った。

また、④の会話の練習では、毎回異なる学生とペアになってもらい、練習相手をしてもらった。

以下では、それぞれの授業終了後に行ったアンケート(資料3, 資料4, 資料5, 資料6)の結果から、日本人学生および留学生にとって、ビジターセッションがどのような意義を持つのか考察する。

6 日本人学生にとってのビジターセッションの意義

本章では、今年度実施したビジターセッションが日本人学生にとって、どのような意義があったのかについて、学期末に実施したアンケート調査の結果から考察を行う。考察の際は、ビジターセッションの目的から、ア) 外国や外国人に対する意識の変化、イ) 留学生との交流、ウ) 日本についての再認識、の3点を考察のポイントとする。

6.1 ビジターの日本人学生の概要

これまでビジターセッションに参加した日本人学生の属性は以下の通りである。

表1 日本人学生の属性

所属		学年	
経済学部	10名	2年	3名
人文学部	2名	3年	5名
理学部	3名	4年	10名
理工学研究科	1名	修士1年	1名

ボランティアに参加しようと思った理由については、以下の表2の通りである。

表2 ボランティア参加理由：複数回答可(日本語3B・5B：回答者8名)

留学生と話したかったから	8 (100%)
国際交流に興味があったから	4 (50%)

留学したいと思っていたから	1 (12.5%)
留学したことがあったから	1 (12.5%)
その他	0

日本人学生全員が選んだのは、「留学生と話したかったから」という回答であった。一方、「留学したいと思っていたから」「留学したことがあったから」という回答は1名のみ(同一学生)であった。以上の結果から、ビジターセッションに参加した日本人学生は、留学生と話したいと思っていたが機会がそれほどなかった学生であることがわかる。これは国際的人材の予備軍である学生に国際交流の場を与えるという目的に沿った日本人学生が参加していたことを示している。

次に、ビジターセッションに参加する前の留学生との交流経験の有無について聞いたところ、表3のような結果を得た。

表3 留学生との交流経験の有無

(日本語3A・3B・5B：回答者16名)

ある	14
ない	2

ここから主に留学生との交流経験がある学生がビジターセッションに参加していることがわかる。交流経験の内容については、以下の表4の通りである。

表4 交流経験の内容(複数回答可)

学生サークル主催のパーティー	5
チューター	3
アルバイト	2
友人の紹介	2
ビジターセッション(3B・5Bのみ)	2
留学生センターの行事のボランティア	2

表4の交流経験の内容を見ると、チューターなどの継続的な交流を持った学生より、パ

一ティーや行事などでの一時的な交流を持ったことがある学生が多いことがわかる。つまり、一度話してみたが結構楽しかったと考えている学生にとって、継続的に交流が持てる場となっていることがわかる。

また、表3からは留学生との交流経験が全くない学生もいることがわかる。このように、全く国際交流経験のない学生に国際交流の場を与えるだけでなく、一時的な交流経験からより深い交流を求めている学生に継続的な交流の場を与える役割も担っている。

6.2 外国や外国人に対するイメージの変化

ビジターセッションを始めた目的の一つに、何となく外国には興味があるが、きっかけがない、英語力に不安がある、何を話せばいいのかわからない、といった国際的人材の予備軍とも言える日本人学生に、国際交流の場として日本語の授業を提供し、外国や外国人に対する敷居を低くしたいという考えがある。

アンケートの結果を見ると、ビジターセッションに参加した日本人学生全員が留学生や国際交流についての考え方が変わったと回答している。

具体的に変わった内容としては、「海外が少しだけ近く感じられるようになった」「外国人も日本人も何も変わらないと思えるようになった」「海外の方と会話をすることが怖くなくなった」といった、外国や外国人を身近に感じられるようになったという回答や、「日本のことだけを知っているだけではだめだと思った」「もっといろいろな国について知りたい」など、国際交流に興味を持ったという意見など、国際交流の積極的な参加への心理的な一歩が進められたことが感じられる回答が目立った。

つまり日本人学生が日本語の授業に入ること、日本語の教え方を学ぶ、日本語について学ぶということだけでなく、外国を身近に感じ国際交流に興味を持つという全学部の学

生に共通する意義があると考えられる。

6.3 留学生との交流

ビジターセッションの目的に、今回のビジターセッション終了後も継続的に留学生との交流を持ってもらうという狙いが挙げられる。

アンケートの自由記述からも「留学生の人たちとも仲良くなれたのでよかった」「今まで話す機会がなかったアジア圏の人たちと話して友人が増えたことが非常に大きな財産」「これまで以上に知り合いになれた留学生が多かった」などと授業外での交流につながっている様子が伺える。

また、留学生へのアンケートで、授業時間以外に日本人学生と話したことがあるかと尋ねたところ、31名中20名(64.5%)が「ある」と答え、フェイスブックで友達になったり、相談をしたりしていることがわかった。特に、留学生に対して日本人学生の人数が多いクラスでその傾向が顕著であった。留学生12名に対し、日本人学生5名の割合であった日本語3Bのクラスでは、アンケートに回答した10名のうち9名が「授業外での交流がある」としている。

6.4 日本についての再認識

国際交流を行う上で、自国について知っていることは必要最低限の知識であり、それにより深い交流を行うことができる。今回のビジターセッションでは「日本人」として留学生と話し合いを行ったことも多かったことから、このような経験を通じて、日本人学生が日本について再認識できたかを分析する。

アンケートの自由記述からは「日本のことをもっと知らなければならなかった」「日本語を改めて学ぶことができた」「文化や言葉について考えるよい機会になった」という回答が得られたものの、16名中3名のみであり、あまり多くない。外国だけでなく、日本についての視野も広げ、深めるためにどのように

すればよいのか、今後活動の改善が必要である。

しかし「自分にとっても勉強になった」という回答は多く、「コミュニケーション力を高めることができた」とする学生もいた。このように「留学生と話したい」と思って参加した日本語の授業を通じて、日本人学生も様々なことを学んだと言える。これまで日本語の授業におけるビジターセッションは、主に留学生の日本語能力の向上や異文化理解といった留学生から見た意義が取り上げられてきた。しかし、日本語のクラスはクラスそのものが異文化接触の環境にあり、クラス内で日常的に多言語・多文化の学生が交流している（宮本,2011）。その日本語の授業に入るということは多国籍の留学生と交流できるということであり、その意味で、日本人学生にとっても国際理解を学ぶ場であると言える。

7 留学生にとってのビジターセッションの意義

本章では、後期の授業である日本語 3B および日本語 5B で実施した、留学生向けのアンケート調査結果から、留学生にとってビジターセッションがどのような意義を持っているのかを考察する。

ビジターセッションの意義としては、表 5 のような回答を得た。

表 5 ビジターセッションの意義：日本語 3B
(複数回答可：回答者 10 名)

日本語を話す練習ができた	10 (100%)
日本人の考え方がわかった	8 (80%)
いろいろな日本人と話せた	9 (90%)
日本人の友達ができた	4 (40%)
自分の国について日本人に話すことができた	7 (70%)
その他	0 (0%)

表 6 ビジターセッションの意義：日本語 5B
(複数回答可：回答者 21 名)

日本語を話す練習ができた	15 (71.4%)
日本人と知り合うことができた	7 (33.3%)
話し合いがスムーズに進んだ	10 (47.6%)
日本語を教えてもらった	11 (52.3%)
その他	3 (14.2%)

※その他の回答：敬語の使い方を習うときにいい、分からないことがあったら気軽に聞ける、日本人の考え方も知ることができて文化理解になる

表 5、表 6 から明らかであるように、留学生が感じるビジターセッションの意義は主に日本語を話す練習であることがわかる。留学生にとって、日本人とじっくり話し合う機会はそう多くない。チューターと話していても話す内容が同じだったり、1つの話題について長く話したりすることはあまり多くない。その点、ビジターセッションでは、リサイクルや時間の感覚、ビジネスなど、通常の会話ではあまり話し合えないテーマについて、いろいろな日本人と時間をかけて話し合うことができたのはいい機会になったと考えられる。

また、日本語 3B のクラスでは、当初日本語のコミュニケーションに自信がなく、あまり話せていなかった留学生も、学期半ばから積極的に話せるようになっていった。このビジターセッションを通じて、日本語を話すことへの自信をつけられたのではないかと考えられる。自信を持つことにより、これまでより積極的に日本語を使うようになり、運用力も上がっていくだろう。

また意外だったのは、上級クラス（日本語 5B）の学生の半数が、日本語を教えてもらえることが意義だと感じていることである。このクラスの学生は、日本人向けの講義にも参加しており、日本語力には問題ないが、日本

人のより自然な日本語を学べる機会として捉えているのだろう。しかし、ビジターセッションに来ていた日本人学生は日本語専攻の学生ではない。そのため、留学生が日本語の文法などについて質問していたとなると、かなりの負担を負わせてしまったことになる。ネイティブの感覚を聞く、ネイティブの話し方を聞いて学ぶのであれば全く問題はないが、ビジターセッションでのビジターの役割を留学生にも周知する必要がある。

今回のアンケートを通して、回答者全員が「日本人学生が日本語クラスに入ることがいい」と回答していた。中には前期の日本語 3A の授業がよかったので、後期もわざわざ選択したという留学生もいた。中級の学生にとっては日本語の運用力をつける機会として、上級の学生はネイティブならではの自然な日本語に触れる機会としての意義がある。

しかし、課題もある。1つはその後につながる交流の機会となったかどうかである。前述の通り、31名中20名(64.5%)の学生が授業外にも日本人学生と交流を持っていると回答している。しかし、「友達になれた」と回答している学生は40%に過ぎない。どのように今後の交流につなげていくのか、改善策を模索する必要がある。

また、日本語 5B のクラスのアンケートの中に「人数が少ない」という回答が複数見られた。このクラスでは22名の留学生に対して、日本人学生が3名であったため、当然の結果とも言える。今後、ビジターの募集方法を検討し、周知徹底のために改善を図る必要がある。

8 おわりに

本稿では、本年度より取組を始めた日本語授業におけるビジターセッションの概要を紹介すると同時に、ビジターセッションに参加した留学生および日本人学生のアンケート調査の結果から双方におけるビジターセッショ

ンの意義について考察を行った。

その結果、参加した日本人学生全員がビジターセッションに参加したことで、留学生や国際交流に対する意識が変化したと答え、日本語授業におけるビジターセッションが日本人学生の国際理解教育としての意義もあることが明らかになった。

留学生に対しては、こちらの意図通り、会話の練習としての意義が留学生にも感じられており、運用力向上につながっていると考えられる。

このような活動は個々の大学の状況に応じた対応が必要である。本稿は、1つのモデルケースとして、山口大学でのビジターセッションの取組を紹介すると同時に、これまでアンケートの自由記述やインタビューから指摘されてきた「ビジターの日本人学生にとっての意義」を数量的にも検証したところに意義があると考えられる。

「留学生と話してみたいがどうすればいいのかわからない」日本人学生と、「日本人とたくさん話して日本語力をつけたい」と思う留学生双方のニーズにマッチし、さらに日本語、国際理解といった教育上の意義ある活動として、今後もさらに工夫を重ねながら続ける必要がある。活動の継続そのものが周知につながっていくだろう。

また、ビジター募集の掲示板を見て「専門の講義があり参加できないが、留学生とは交流したい。留学生と交流するためにはどのような方法があるのか」とメールで相談してきた日本人学生もいた。ビジターを募集することは、普段日本人学生と接点を持たない留学生センターの教員の存在を周知することにもつながると思われる。また、留学生との交流を望みつつ、その方法が分からない学生にとっての窓口の1つとなると考えられる。

しかし、人数のバランスや周知方法など今後に向けた課題もいくつかみられる。今後は、ビジターセッションをより多くのクラスで実

施できるようにし、ビジターを登録制にして興味のある学生が空いている時間を登録し、クラスの数や活動内容に合わせて振り分けるなど、改善方法を模索していく必要がある。

また、アンケートの中には「日本語がうまく説明できない」といった日本人学生の回答が見られた。ビジターである日本人学生は、あくまでも日本語の専門ではないことを念頭に、日本人学生にとっても留学生にとっても意義のある日本語授業を行う必要がある。

(留学生センター 講師)

【参考文献】

梶原綾乃, 2003, 「留学生と日本人学生との交流促進を目的としたコミュニケーション教育の実践」『日本語教育』117号, 93-102.

蔭山峰子・藤井みゆき, 2009, 「ビジターセッションにおける接触場面の談話・会話分析」『同志社大学日本語・日本文化研究』第7号, 43-59.

近藤彩・品田潤子・金孝卿, 2011, 「SWOT分析を使った授業実践を考える」, 第5回ビジネス日本語研究会発表資料.

園田博文・奥村圭子・中村朱美, 2008, 「異文化理解力とコミュニケーション能力の養成にむけて—山梨大学・山形大学・佐賀大学の授業実践を事例として—」『山形大学紀要(教育科学)』第14巻第3号, 55-77.

中井陽子, 2003, 「談話能力の向上を目指した会話教育—ビジターセッションを取り入れた授業の実践報告—」『講座日本語教育』第39分冊, 79-100.

ネウストプニー, J.V., 1982, 『外国人とのコミュニケーション』岩波書店.

深澤のぞみ・岡澤孝雄, 1999, 「日本人ボランティア・チューターの意識調査」『金沢大学留学生センター紀要』vol.2, 49-66.

宮本美能, 2011, 「多言語・多文化授業環境を生かした国際理解教育の実践—大学生と高校生の交流会における—考察—」『大阪大学国際

教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第15号, 61-68.

渡部倫子・坂野永理, 2008, 「日本語会話パートナー制度を活用した日本語授業」『大学教育研究紀要』第4号, 23-31.

Panda, Nabin, 2005, 「ビジターセッションの効果と日本人協力者の役割—MOSAI日本語学院におけるアンケートの分析から—」『日本語文化研究会論集』第1号, 41-57.

【資料1】

ボランティア募集のポスター(前期)

日本語授業の会話ボランティア募集



～留学生と日本語で話してみませんか?～

以下の日本語の会話の授業で、留学生の会話の練習相手をしてくださる人を募集しています。日本語で留学生と話すボランティアです。準備は何も必要ありません。学年も問いません。

学期途中からでも参加可能です。興味のある方は、留学生センターの永井涼子(nagair@yamaguchi-u.ac.jp)まで、ご連絡ください。

日本語ⅢA

毎週木曜日 7,8 時限(14:30-16:00)

共通教育棟 41 番教室

担当教員: 永井涼子(留学生センター)

nagair@yamaguchi-u.ac.jp,

083-933-5987

【資料 2】

ボランティア募集のポスター（後期）

日本語授業の会話ボランティア募集



～留学生と日本語で話してみませんか？～

以下の2つの日本語の授業で、留学生の会話の練習相手をしてくださる人を募集しています。日本語で留学生と話すボランティアです。準備は何も必要ありません。学年も問いません。

学期途中からでも参加可能です。授業は1つだけでもOKです。興味のある方は、参加してみたいクラスを留学生センターの永井涼子(nagair@yamaguchi-u.ac.jp)までご連絡ください。

日本語ⅢB

水曜日 3,4 限 (10:20-11:50)

共通教育棟 演習室 32

担当教員： 永井涼子

083-933-5987

nagair@yamaguchi-u.ac.jp

※ 日本語中級レベルのクラスです♪

日本語ⅤB

水曜日 7,8 限 (14:30-16:00)

共通教育棟 36 番教室

担当教員： 永井涼子

083-933-5987

nagair@yamaguchi-u.ac.jp

※ 日本語上級レベルのクラスです☆

【資料 3】

アンケート（日本語 3A：日本人学生向け）

質問用紙ご記入のお願い

ボランティアのみなさま、今学期は日本語 3A のクラスにご協力いただき、ありがとうございました。留学生はこのクラスで日本人の人と話すのが、緊張するものの、とても楽しい時間となっていたようです。本当にありがとうございました。

今後もボランティアのクラスは毎学期やっというと思っています。学期によって、上級クラスのビジネス日本語であったり、プレゼンの授業だったり、と内容は変わってくると思いますが、日本人の学生さんに授業に入っただき、交流を持っていただく機会を提供し続けたいと思っています。もしまたお時間があり、興味を持つ内容であれば、ぜひご参加ください。お待ちしております。

今後のボランティアクラス運営に際して、みなさまから今学期のご感想などを伺えれば幸いです。以下にご記入いただけませんか。忌憚のないご意見をお願いします。本当にありがとうございました。ご記入いただいた情報は教育・研究のみに使用します。

1. 学部： 学部／ 研究科
2. 学年： 年
3. ボランティアを始めたきっかけ：
4. これまで留学生と接する機会がありましたか： はい ・ いいえ
5. 4で「はい」と答えた方はどのような機会でしたか：
6. クラスに参加して、よかったと感じた点はどうなところですか：
7. クラスに参加して、やりにくいと感じた点はどうなところですか：
8. フリートークと、会話の練習はどちらが楽し

かったですか。

9. その他、何かありましたら、ご自由にご記入ください。

以上です。ありがとうございました。

【資料4】

アンケート（日本語 3B・5B：日本人学生向け）

=====
アンケートのお願い

いつも、クラスにご協力いただきまして、ありがとうございます。留学生にとって非常に貴重な機会となっております。

クラス運営の質の向上のため、以下のアンケートにご協力いただけますと幸いです。よろしくお願いたします。なお、このアンケートの集計結果は教育改善のための研究などに使用させていただきます。

(1) ボランティアに参加しようと思ったのはどうしてですか？（複数回答可）

- a) 留学生と話したかったから
- b) 国際交流に興味があったから
- c) 留学したいと思っていたから
- d) 留学したことがあったから
- e) その他

(2) このボランティアを始めるまで、留学生と話した（交流した）ことがありましたか？

a) はい

⇒ それはいつですか？：

どのような内容・きっかけですか？：

b) いいえ

(3) これまで海外に行った経験がありますか？

a) はい： どの国にどうして行きましたか？

b) いいえ

(4) ボランティアに参加してみて、留学生や国際交流についての考え方が変わりましたか？

a) はい

⇒ 具体的にどのように変わりましたか？

b) いいえ

⇒ 理由があれば教えてください。

(5) ボランティアの参加方法については、どう思いましたか？

- a) とても満足している
- b) 満足している
- c) どちらともいえない
- d) 少し不満である
- e) 不満である

(6) (5)で d)e)と答えた方に質問です。どのような点に不満を感じましたか？

(7) 今回のボランティアを通して、率直な感想を教えてください。

以上です。

ご協力ありがとうございました。

【資料5】

アンケート（日本語 3B：留学生向け）

=====
アンケートのお願い

みなさん、このクラスでは日本人学生にボランティアとして来てもらいました。みなさんとたくさんディスカッションをしてくれました。

このボランティアをこれからも続けていきたいと思しますので、アンケートに協力してください。なお、このアンケートの結果は、研究に使うこともあります。

(1) ボランティア学生とのディスカッションはどうでしたか？

- a) とてもたのしかった
- b) たのしかった
- c) どちらでもない
- d) あまりたのしくなかった
- e) たのしくなかった

(2) (1)で、d)あまりたのしくなかった、e)たのしくなかった、と答えた人は、どうしてそう思いましたか？

(3) ボランティア学生と、授業の時間以外に話したことがありますか？

- a) はい : たとえば, どんな時ですか?
友達になりましたか?
- b) いいえ
- (4) ボランティアの学生と話して, どんなことがよかったですか? (2つ以上○を書いてもいいです)
- a) 日本語を話す練習ができた
- b) 日本人の考え方がわかった
- c) いろいろな日本人と話すことができた
- d) 日本人の友達ができ
- e) 自分の国について日本人に話すことができた
- f) その他:
- (5) ボランティア学生と, もっといっしょにしたかったことがありますか?
- (6) ボランティア学生が, 日本語のクラスに入ることに, どう思いますか?それはどうしてですか?
- これで終わりです。
ありがとうございました。

- (2) (1)で d)どちらもよくなかったと答えた人は, どうしてそう思いましたか。
- (3) ボランティアがクラスに入ることで, どのようないいことがありましたか。
- a) 日本語を話す練習ができた
- b) 日本人と知り合うことができた
- c) 話し合いがスムーズに進んだ
- d) 日本語を教えてもらった
- e) その他
- (4) ボランティアの人と授業以外で話すことがありますか。
- a) はい
⇒ どのような時に話しますか:
- b) いいえ
- (5) ボランティアの人ともっとやりかっ活動がありますか。
- (6) ボランティアの人が日本語のクラスに入ることに, 自由に意見を書いてください。
以上です。
ご協力ありがとうございました

【資料 6】

アンケート (日本語 5B: 留学生向け)

=====
アンケートのお願い

このクラスでは, 日本人学生にボランティアに入ってもらって, 話し合いの進行役や, 会話の練習相手などになってもらっています。

学生ボランティアが日本語のクラスに入ることに, アンケートに答えてください。なお, このアンケートの結果は教育改善のための研究などに使われます。

- (1) ボランティア学生との活動で, どちらのほうによかったですか。
- a) どちらもよかった
- b) 業界研究
- c) 会話の練習
- d) どちらもよくなかった